

殺菌剤

登録番号 第12956号

# ヨネポン

(ノニルフェノールスルホン酸銅乳剤)



- 有効成分 ノニルフェノールスルホン酸銅 30.0%
- 性状 黒褐色可乳化油状液体
- 毒性 普通物
- 有効年限 5 年
- 危険物表示 第4類第二石油類(水溶性)
- 包装 100ml×60本/ケース 500ml×20本/ケース

## 【特 長】

1. 有機銅系殺菌剤です。
2. 本剤による果実や花、葉への汚れの心配はありません。
3. 浸透性があり安定した効果を示します。
4. 水稻の種子消毒剤としても使用できます。

## 【適用病害虫と使用方法】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (10a当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ノニルフェノールスルホン 酸銅を含む農薬の 総使用回数	
稲	もみ枯細菌病 ばか苗病 いもち病 ごま葉枯病	20	-	浸種前	1回	10分間浸漬	1回	
	褐条病 苗立枯細菌病	20~30				24時間浸漬		
	ばか苗病 いもち病	50						
	褐条病 苗立枯細菌病	100				種子吹き付け 処理(種子消 毒機使用)		
	ごま葉枯病	50~100						
	もみ枯細菌病	50~200						
	もみ枯細菌病 褐条病 ばか苗病 苗立枯細菌病	7.5				乾燥種籾1kg当り 30~60ml		
	いもち病 ごま葉枯病					乾燥種籾1kg当り 60ml		

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量 (10a当り)	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ノニルフェノールスルホン 酸銅を含む農薬の 総使用回数	
メロン	うどんこ病 べと病	500	100～300 ℓ	収穫7日 前まで	4回以内	散布	4回以内	
きゅうり	うどんこ病 べと病 斑点細菌病	500～ 800		収穫前日 まで				
ズッキーニ	べと病	500		収穫14日 前まで	3回以内			3回以内
パセリ	うどんこ病 斑点病 軟腐病 アブラムシ類	700						
こんにゃく	腐敗病 葉枯病	500	収穫30日 前まで	7回以内	7回以内			
ばれいしょ	そうか病	50～100	－	植付前	1回	10秒間 種いも浸漬	5回以内 (種いもへの処 理は1回以内、 散布は4回以内)	
		25	種いも1kg当り 15～30ml			種いも 吹き付け処理		
やまのいも	青かび病	50	－			瞬間～10分間 種いも浸漬	1回	
ぶどう	晩腐病 黒とう病	100	200～700 ℓ	萌芽前		散布	3回以内 (萌芽前は1回 以内、 萌芽後は2回 以内)	
ばら	うどんこ病	500	100～300 ℓ	－	6回以内		6回以内	
桑	枝軟腐病 縮葉細菌病		100～200 ℓ	収穫直後 －	5回以内	5回以内		

## 【上手な使い方】

1. 稲に使用する場合、過剰浸漬及び催芽機温度を適温とし高温にすること等はさけてください。
2. 稲に使用する場合、本剤は界面活性系に付き、催芽機の水を循環中泡立ちするので消泡剤をスプレーすることにより、簡単に消泡します。
3. ばれいしょの種いも消毒に使用する場合、萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるおそれがあるので、萌芽前に種いもを切断せずに処理してください。

## 【使用上の注意】

1. 散布液調製後はなるべく早く使用してください。
2. 石灰硫黄合剤、マシン油乳剤、ジネブ剤、ジチオカーバメート系薬剤との混用はさけてください。
3. 夏期高温時には薬害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
4. きゅうりに使用する場合に次の事項に注意してください。
  - ① 高温時の散布は薬害が激しいのでさけてください。
  - ② 連続散布すると葉の周辺が黄化したり硬化したりすることがあるので過度の連用はさけてください。

5. 稲に使用する場合次の事項に注意してください。
- ①種子消毒は浸種前に行ってください。
  - ②発芽不揃い等の薬害を生じるおそれがあるので消毒した種籾は乾燥せずに浸種してください。
  - ③浸種処理の場合、籾と処理薬液の容量比は1：1以上とし、種籾はサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
  - ④吹き付け処理の場合は種子消毒機を使用し、種籾に均一に付着させて乾燥してください。
  - ⑤本剤の処理を行なった種籾を浸種する場合は、次の事項を守ってください。
    - 1) 浴比は1：2とし、停滞水中で浸種してください。
    - 2) 水の交換は原則として行わないでください。但し、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水してください。
    - 3) 河川、湖沼、ため池などでは浸種しないでください。
  - ⑥本剤の処理により、初期生育遅延を認めることがあります。その後回復するので通常の管理を維持してください。
6. ばれいしよの種いも消毒に使用する場合、萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるおそれがあるので、萌芽前に種いもを切断せずに処理してください。
7. 桑に散布した場合は3日以上経過してから蚕に給葉してください。
8. 使用に当たっては使用量、使用時間、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。
9. 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液及び薬液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。  
また浸漬処理薬液及び吹き付け処理薬液も眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。  
眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
10. 原液は皮膚に対して強い刺激性があるので、散布液及び薬液調製時には不浸透性手袋を着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。  
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
11. 散布の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。  
また吹き付け処理の際は、農薬用マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用してください。  
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいするとともに衣服を交換してください。
12. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
13. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
14. 水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理してください。
15. 空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
16. 危険物第4類第二石油類に属するので火気には十分注意してください。

### 【貯蔵上の注意】

火気をさけ、食品と区別して、直射日光が当たらない低温で子供の手の届かない場所に密栓して保管してください。